

コロナ大流行の教訓

北村義浩

長野保健医療大学・日本医科大学

新型コロナウイルスの世界的大流行が始まってすでに 850 日あまりが経過した。将来の類似する大流行に備えるために、われわれは今回の大流行から以下の 3 つを教訓として学んで活かすべきである。第 1 に、大流行に備える人材育成が重要である。感染症や公衆衛生の分野のみならず、薬学 / ウイルス学の人材が不足している。まして経済学・工学・心理学・情報科学などの分野の人材は極端に不足している。これらの広領域の専門家たちが国際的に協働して対策に当たれるようなシステム構築も重要である。人材育成にはお金がかかること以上に時間がかかることを肝に銘じて長期的展望に立った計画を立案しよう。第 2 に、リスク管理の観点での正しい情報伝達の問題を解決すべきである。大手メディア（新聞社やテレビ局）や政府広報以外からのネット情報があふれかえっており、フェイク情報も多い。表現の自由があるからといってフェイク情報を流布させ社会を混乱させることは許容できない…それゆえ、フェイク情報を制限する市民合意と法整備が必須である。コロナ対策担当大臣や尾身先生がトップダウンに情報を伝えるだけでなく、地域活動に参加し地域の人々にメッセージを伝えたり質問に答えたりするような、草の根的なボトムアップの情報伝達があまりに不十分である。地域に根ざした情報伝達はパンデミックに限らずさまざまな事態に重要であるから活用を大いに期待したい。第 3 に、すべての社会活動に選択肢を設けるべきであろう。すべての企業や教育を含むすべての事業所は少なくとも行動制限が伴う場合に代替活動に速やかにスムーズに移行できるように通常の活動体制以外の選択肢を計画して準備しておくべきである。対面形式で行われる諸活動はリモート活動やディスタンスを取った遮蔽物越しでの活動に直ぐに移行できるようにしよう。ロボットの活用やデジタル化推進を併せて行いつつ、不要な対面活動を減らす社会改革も求められる。対面でしかできない活動を安全に実施できる方策も研究すべきである。